

テーマ 40	AI 翻訳技術等を活用した 「やさしい日本語」変換ツール導入に向けた検証（袋井市）
--------	--

1. 解決したい課題の内容

- ・袋井市では、在留外国人のさらなる増加や、長期滞在化・定住化・多国籍化が進むことが予測される中、外国人のみならず日本人も含めたすべての人の連携・協働により、多文化共生のまちづくりを進めていくことを目的として、2019年3月に「ふくろい多文化共生のまちづくり計画」を策定した。
- ・外国人との共生に有効な手段の一つとして、相手に伝わるよう配慮した簡単な日本語である「やさしい日本語」を活用した情報発信やコミュニケーションを推奨している。
- ・行政の情報は、いまだに専門用語や難しい言い回しなどが使われ、日本人であっても理解しにくいものが多々存在するため、袋井市ホームページでは掲載内容について「やさしい日本語」を活用したルビを振るといった取り組みを実施している。
- ・万人に伝わりやすい「やさしい日本語」への変換作業には、一定の知識やコツ、手間を要す一方で、具体的な基準や認定制度が存在しないことから、現時点では積極的な活用がなされていない状況である。

※コツや手間の例

1. 数ある情報の中から必要なものを取捨選択する
 2. 伝えたい内容を前に持って来る
 3. 一文中で一つの情報にとどめる
 4. 一文を短くする
 5. 主語と述語を明確にする
 6. 難しい言葉を易しい言葉に置き換える（「避難する」⇒「逃げる」など）
 7. 分かち書きにする（「リンゴをたくさん買います。」⇒「リンゴを たくさん 買います。」）
 8. 漢字にすべてルビ（ふりがな）をつける
 9. 必要に応じて写真やイラストをつける
- [参考]浜松市「やさしい日本語研修ワークブック（入門編）」 web_fnl_workbook_5.pdf (hi-hice.jp)

- ・現在出回っているソフトウェアはあるが、行政用語への対応度合いが低い、入力文章の「やさしい日本語」レベル判定のみ、変換が必要な箇所の指摘のみ等、使い勝手の面で課題がある。

2. 実現したい目標について

行政だけでなく、一般市民も含めて、伝えたい情報について簡単にやさしい日本語に変換できるようにしたい。

3. 必要とする技術について

以下を想定するが、これにこだわらない。

- ・日本語を「やさしい日本語」に翻訳する技術
- ・Google 翻訳カメラのように、どの部分のことを示しているか AR で示す技術
- ・上記機能を搭載したスマホアプリなどの開発技術

4. 想定する実証実験（内容・希望時期等）について

※実証内容は以下を想定するが、これにこだわらない。

・まず袋井市 HP や行政情報をもとに、提案技術を用いたアプリケーションのプロトタイプを実証的に使用し、翻訳した内容を市内在住の外国人に見てもらい、精度や効果、使い勝手を検証する。それと並行して、市民が市内在住外国人に情報を伝えたいというシナリオを作成し、同様のプロトタイプを用いて翻訳した内容を市内在住の外国人に見てもらい、精度や効果等を検証する。

5. 課題に関連する事業のホームページ URL

- ・袋井市「ふくろい多文化共生のまちづくり計画」

<https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/51/1/9384.html>

- ・(参考) 文化庁「【静岡県・袋井市】市町村と連携した日本語教育モデル展開と自立をめざして」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/todofuken_kenshu/r3_annai/pdf/93510701_10.pdf

- ・(参考) 文化庁「在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインほか」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html

- ・(参考) 静岡県「「やさしい日本語」とは～易しく優しく伝わる言葉～」

<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/1049844/1002474/index.html>